

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2009年2月

IEC/TC89(耐火性試験)マルタ会議

IEC/TC89の国際会議が2008年11月3日～6日、マルタ共和国で開催された。参加国はマルタも含めて米国、英国、ドイツ、フランス等14か国で、総勢34名の参加があった。日本からは、IEC/TC89国内委員会の吉田委員長（(独)海上技術安全研究所）、深谷委員（(社)電線総合技術センター）、香月委員（(独)製品評価技術基盤機構）、春原委員（ポリプラスチック(株)）および乾（帝人化成(株)）の5名が参加した。

TC89の会議が開かれたマルタは、ブーツの形をしたイタリア半島の先のサッカーボール（シチリア島）の傍らに転がっている小石のようだとされている小さな島である。会議はWG12（着火と燃焼の広がり）、WG10（ガイダンス）、WG11（燃焼生成物）、議長諮問会議（CAG）およびTC89全体会議の順に進められた。各WGのトピックスをプラスチックに関係のあるテーマを中心に以下に述べる。

1. WG10 会議（ガイダンス）

(1)IEC/CD(委員会原案) 60695-1-11（火災の危険性の評価）

火災シナリオは定性的、火災モデルは定量的な説明であることを明確にすることになった。

2. WG11 会議（燃焼生成物）

(1)IEC/CD 60695-6-2（燃焼発煙性－試験方法及び適用のガイド）

3 m キューブ試験（1981年のロンドン地下鉄の火災事故後に開発された試験方法）は、引用規格で廃止されているものがあるので、整理し、国際規格と各国規格に分けて示すことになった。

NBS チャンバーは問題もあるが、幅広く使用されているので、規定の表現を修正して、今後も使用できるようにすることになった。

3. WG12 会議（着火と燃焼の広がり）

(1)IEC/CD 60695-2-10（グローワイヤ試験－装置及び共通試験方法）

ラウンドロビンテスト（RRT、持ち回り試験）が4か月遅れで実施されることになった。装置仕様や試験手順で結果に影響を与えるものがあるので、日本からプロジェクトリーダーに情報を提供して、事前に協議を実施することになった。RRTには、日本から3機関が参加する。

2008年末までにMCR（メンテナンスサイクル報告書）を発行する（2-11も同じ）。

(2)IEC/CD 60695-2-11（最終製品のグローワイヤ燃焼性試験方法）

火災危険性に寄与しないとする試験片の重量が製品規格によって異なっているので、0.5 gまたは4 gが使用されている事例がある旨を記載することになった。

(3)IEC/CD 60695-2-12 (材料のグローワイヤ燃焼性試験方法)

未知サンプルの場合、開始温度を 650℃にする。

30 秒の計時に関する日本の提案が認められ、30.2 秒は 30 秒に、30.3 秒は 30.5 秒に丸めるという NOTE を加えることになった。

2009 年 1 月 30 日までに CDV 投票に出すことになった (2-13 も同じ)。

(4) IEC/CD 60695-2-13 (材料のグローワイヤ着火性試験方法)

最低試験温度は 500℃、未知サンプルの試験開始温度は 650℃、厚肉サンプルからの試験片の削り出し規定に関する日本提案が認められた。

製品規格によって判定基準が異なるものがあるので、P (Proof) -GWIT を提案し、2-14 として新たに作業文書を提出することが認められた。

(5)IEC TS 60695-11-11 (火炎からの熱流束による着火性試験) : 本規格は日本提案。

TS (技術標準書) として発行する。RRT は TS 発行後に行い、日本が計画することになった。

(8)IEC 60695-11-10 (50W 試験炎による燃焼試験) および IEC 60695-11-20 (500W 試験炎による燃焼試験)

5VB 試験方法について、日本提案 (5 秒間バーナ固定法) が取り入れられることになった。2011 年までに改訂され、UL 94 にも反映される予定。

2008 年末までに MCR for revision を発行する。

4. その他

製品規格委員会からの要求で、ホットワイヤ着火試験方法の検討を行なう新規提案があった。日本から RRT に参加する。

次回の会議は 2009 年 5 月 13 日～15 日に、イタリアのベローナで開催される予定である。

報告：日本プラスチック工業連盟
電気安全・規格委員会派遣
乾 泰夫 (帝人化成(株))